

観光ボランティアガイド組織における
育成方法の簡略化
—富山県富山市を事例に—

富山大学人文学部人文学科
社会文化コース 人文地理学研究室
野口晴菜

1

1

目次

I はじめに
II 研究目的・仮説・調査方法
III 調査結果
IV 考察
V おわりに

2

2

I はじめに

地域振興や地域活性化 地域資源を**観光資源**として活用

観光客
「人々の暮らしぶり」そのものが観光対象 = 「空間の商品化」

地域住民
自らが地域の魅力を外部に発信する活動が拡大

II

観光ボランティアガイド

3

3

I はじめに

図1 日本における観光ボランティアガイドの人数と組織数推移
(2017年度観光ボランティアガイド団体調査結果より作成)

4

4

I はじめに

1970年代後半 英語圏で、ボランティア・セクター研究

- 前田(2011)は、今後、**担い手**をめぐる研究が重要
- アンケート調査では、
観光ボランティアガイド組織が抱えている問題
「**後継者育成**」84.5%

↓

担い手、後継者に注目

5

5

I はじめに

林ほか(2012)

「後継者育成」に注目し、観光ボランティアガイドの基本属性や活動実態を分析。ガイド活動や人材育成方式が個人に与えた影響を評価。

- **大規模組織** (横浜シティガイド協会、約90名)を
主な研究の対象
- ➡ 全国平均の組織規模 (10~20名) と違う
- ➡ **全国平均規模の組織を対象とした研究が必要**

6

6

II 研究目的・仮説

研究目的

後継者育成に注目し、富山県富山市で展開されている観光ボランティアガイド組織における育成方法を明らかにする。

仮説

- 林ほか(2012)の中、その他の4組織は富山市と同規模であり、その他の4組織の育成方法は簡略化が起きていた。
→富山市内の観光ボランティアガイド組織でも同様のことが起きているのでは
- 林ほか(2012)では、簡略化の過程の記述なし
→簡略化の過程を記述する

7

7

II 調査方法

調査方法 聞き取り調査

日時

2018年10月～11月 一人約1～2時間

対象

富山市内観光ボランティア組織の各代表 8名
富山市観光ボランティアグループ紙ふうせんのメンバー2名

内容

構成人数、年齢、設立年、発足の経緯、客層、活動状況、ガイド募集方法、知識習得形態、活動参加契機、個人的な知識習得機会、リーダー引き継ぎ

8

8

II 調査方法



ID	名称	所在地
A	富山市観光ボランティアグループ紙ふうせん	富山市中心市街地
B	新堀案内グループ	新堀地区
C	富野遊歩会	富野遊歩会水公園周辺
D	富山県観光ボランティアガイドの会	市内地区
E	立山山麓観光ボランティアガイドの会	立山山麓一帯
F	観光ボランティアガイドおねくら会の会	大沢野・緑入地区
G	富山県観光ボランティア	富山地区
H	上陸地区観光ボランティアガイドの会	上陸地区

図2 富山市内の観光ボランティアガイド組織分布図 (富山市ホームページより作成)

9

9

II 調査方法

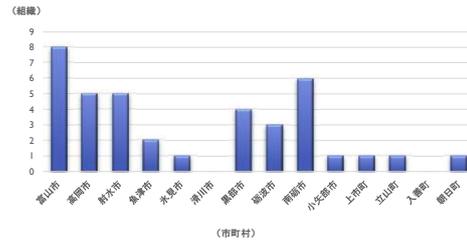


図3 富山県市町村別観光ボランティアガイド組織数 (富山県ホームページ、各市町村ホームページより作成)

10

10

III 調査結果

- 人数 10～20名
- 年齢 65歳以上
- 少人数グループの案内増加
- ガイド料金 6/8組織が徴収
- 英語可 2組織のみ

11

11

III 調査結果

表1 富山市の観光ボランティアガイド組織の対象資源の有無 (TOYAMANET、聞き取り調査より作成)

カテゴリ	A	B	C	D	E	F	G	H
自然資源					○	○	○	○
有形文化財	○	○	○	○		○	○	○
無形文化財		○				○	○	
観光スポット	○		○					
案内							○	
史跡巡り								○
場所・旧所	○	○		○		○		○
全般				○				
展示物					○			○
特定人物		○						
体験	○				○			

全ての組織が、徒歩・ウォーキングによって各地域内を巡る形態をとっている

12

12

Ⅲ 調査結果

表2 発足要因 (聞き取り調査より作成)

発足要因	A	B	C	D	E	F	G	H
行政	○		○			○	○	
観光地		○		○	○			
イベント								○
知識								○

A: 紙ふうせん B: 岩瀬案内グループ C: 富岩運河かたりべの会
 D: 風の案内人 E: うれの会 F: あねくら姫の会 G: 婦中町観光ボランティア H: 上滝地区観光ボランティアガイドの会

発足経緯は行政要因が50%

13

Ⅲ 調査結果

表3 発足要因別募集方法 (聞き取り調査より作成)

発足要因	組織	方法
行政	A	広報, 口コミ
	C	広報, 口コミ
	F	張り紙, 口コミ
	G	広報, 口コミ
観光地	B	口コミ, 会合で呼びかけ
	D	口コミ
	E	口コミ, イベント参加者に呼びかけ
	H	口コミ, チラシ, 回覧板

A: 紙ふうせん B: 岩瀬案内グループ C: 富岩運河かたりべの会
 D: 風の案内人 E: うれの会 F: あねくら姫の会 G: 婦中町観光ボランティア H: 上滝地区観光ボランティアガイドの会

14

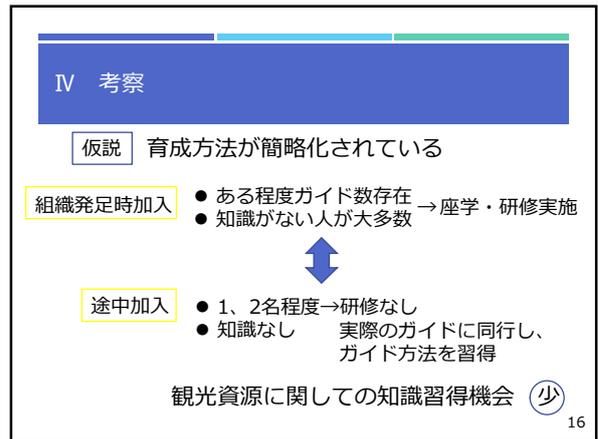
Ⅲ 調査結果

表4 加入時の研修について

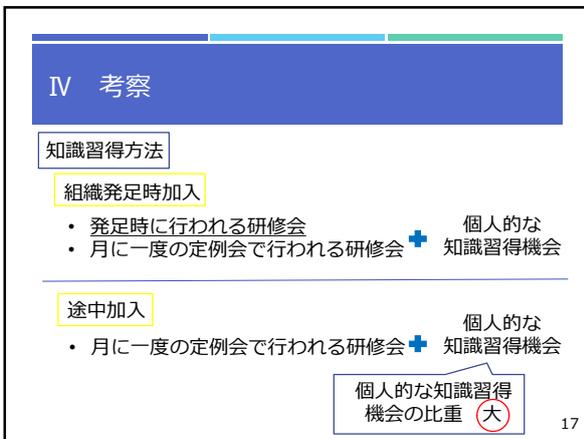
組織	発足時メンバー	途中加入メンバー
A	1年前	なし
B	4か月前 ・座学 ・現地研修	
C	ガイド開始と同時	既存メンバーのガイドに同行 簡略化
D	ガイド開始と同時	
E	ガイド開始と同時	
F	約3年前	
G	ガイド開始と同時	
H	1,2か月前	

A: 紙ふうせん B: 岩瀬案内グループ C: 富岩運河かたりべの会 D: 風の案内人
 E: うれの会 F: あねくら姫の会 G: 婦中町観光ボランティア H: 上滝地区観光ボランティアガイドの会

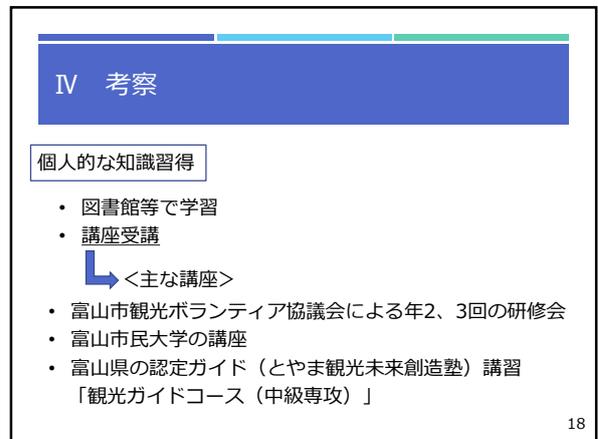
15



16



17



18

V おわりに

発足時加入メンバーと途中加入メンバーの育成方法に差がある

育成研修が省略



各ガイドの個人的な知識習得が重要

ガイドの学習機会を提供することが
今後の組織形成につながる

19

19

参考文献

- ・ 磯野巧 2016. 徳島県徳島市における観光ボランティアガイド活動の地域的展開. 観光研究27(2) : 59-70.
- ・ 加藤麻理子・下村彰男・小野色平・龍谷洋一 2003. 地域住民による観光ボランティアガイド活動の実態と動向に関する研究. ランドスケープ研究66(5) : 799-802.
- ・ 公益社団法人日本観光振興協会 全国観光ボランティアガイド2017年度観光ボランティアガイド団体調査結果 <http://www.nihon-kankou.or.jp/volunteer/>
- ・ 社団法人日本観光協会 1994. 『観光ボランティアガイド：現状と展望』社団法人日本観光協会.
- ・ 中部広域観光推進協議会 2007. 『中部の観光』交通新聞社.
- ・ とやま観光ナビ「とやま観光未来創造塾とは」 <https://www.info-toyama.com/kankomirai/>
- ・ 富山県ホームページ http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1401/kj00013393.html 2018年11月13日閲覧
- ・ 富山市史編纂委員会 2015. 『富山市史』富山市.
- ・ 富山市の観光公式サイトTOYAMANET <http://www.toyamashi-kankouyukai.jp/?tid=100001> 2018年11月13日閲覧
- ・ 富山市ホームページ『富山市プロフィール』 <http://www.city.toyama.toyama.jp/index/shisei/purofuru.html>
- ・ 富山大学人文学部文化人類学研究室 2017. 『富山市八尾町の生活文化、地域社会の文化人類学的調査』26 : 103-123.
- ・ 野原盛敏・山崎正和・ハンス・H・ミュンクナー・栗本昭・田村正勝・鳥越皓之 2001. 『現代社会とボランティア』ミネルヴァ書房.
- ・ 深見聡 2009. 観光ボランティアガイドの台頭とその意義—篤姫ブームを事例として—. 地域総合研究37(1) : 45-56.
- ・ 前田洋介 2011. 地理学におけるボランティア・セクター研究の成立と展開. 地理学評論 84(3) : 220-241.
- ・ 林誠博・栗秀紀・岡村哲 2012. 横浜市の観光ボランティアガイド組織に関する研究：その育成方式を中心に. 観光科学研究5 : 95-106.
- ・ 安福恵美子 2014. 地域資源と「観光ボランティアガイド」の関係性 に関する一考察. 愛知大学総合郷土研究所紀要59 : 101-114.

20

20